

はあとふる ふくしま

2022

11月

No.311



2022年度シリーズ
ふくしまの未来



特集

避難者地域支援コーディネーターによる 地域支援

～避難者の孤立防止と地域との関係づくりを目指して～



シリーズ[未来へつなごう“ふくしま”から]

地域の生活を支え、つながりを生み出す移動販売
只見町社協の買い物支援事業

- 「落ち葉いっぱいあったよ！」
- 秋を感じる園庭でみんなで仲良く遊ぶ
- 微笑ましいコマです。
- (くまっこ保育園・西郷村)



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は
音声版および点訳版を作成しています。



避難者地域支援コーディネーターによる 地域支援

避難者の孤立防止と地域との関係づくりを目指して

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から11年8カ月が経過し、県内の復興公営住宅では入居者の高齢化が進み、団地や地域に馴染めず孤独・孤立を深める人が増えています。こうした課題を解決するため、県社協は今年度から「避難者地域支援コーディネーター」を新たに配置し、避難者が現在の居住地で安心して生活できるよう地域支援の充実強化を進めています。

避難者に寄り添った支援を 続けてきた生活支援相談員

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県ではいまでも多くの人がふるさとから離れ、避難生活を余儀なくされています。県社協は国と県から委託されて「避難者生活支援・相談センター」を設置し、関係市町村社協や専門機関などと協働・連携して避難者生活支援事業に取り組んできました。

平成23年8月から、避難をした市町村の社協（避難元社協）、避難者を受け入れている市町村の社協（避難先社協）双方に「生活支援相談員」を配置。個別訪問等による被災者・避難者の見守りや相談支援、避難者同士の交流会開催等による居場所づくり・コミュニティづくりなどを行ってきました。令和4年9月末現在、21市町村社協で134人の生活支援相談員が活動しています。

復興公営住宅の課題解決へ 地域とのつなぎ役を配置

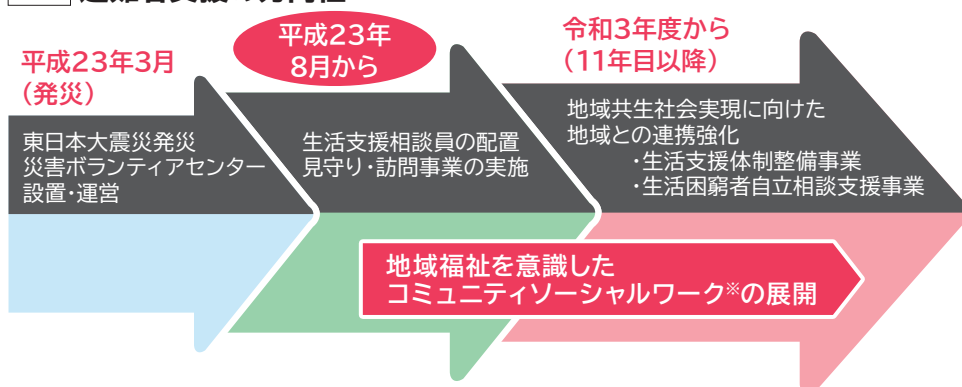
避難生活の長期化に伴い、仮設住宅や借り上げ住宅から復興公営住宅に移り住んだり、避難先で住宅を再建する人が増え、避難者の居住環境



▲県社協避難者生活支援・相談センター
佐藤正紀センター長

は大きく変化しています。それと同時に新たな課題が浮かび上がってきました。「復興公営住宅は県内各地に72団地・約5,000戸が整備されており、避難元自治体が異なる方が混在して入居しています。以前からのコミュニティが無いうえ、新しいコミュニティ形成にも温度差があります。高齢の方はここを終の住処と考える一方、働き盛りの世代は避難先に住宅を再建したい、ふるさとに戻りたいと考える方も多く、復興公営住宅でのコミュニティ形成が容易ではないのが現状です」。そう説明するのは、避難者生活支援・相談センターの佐藤正紀センター長です。避難者の高齢化も進んでおり、復興公営住宅の入居者の平均年齢は68歳、54・7%が単身世帯というデータもあります。「孤独・孤立を感じても相談する相手がいない、団地がある地域住民との関係性が希薄で、地域にも馴染めない、という避難者も多く、コロナ禍でサロンやイベントなどの交流機会が減少したこともあり、さらに孤独・孤立を深める人

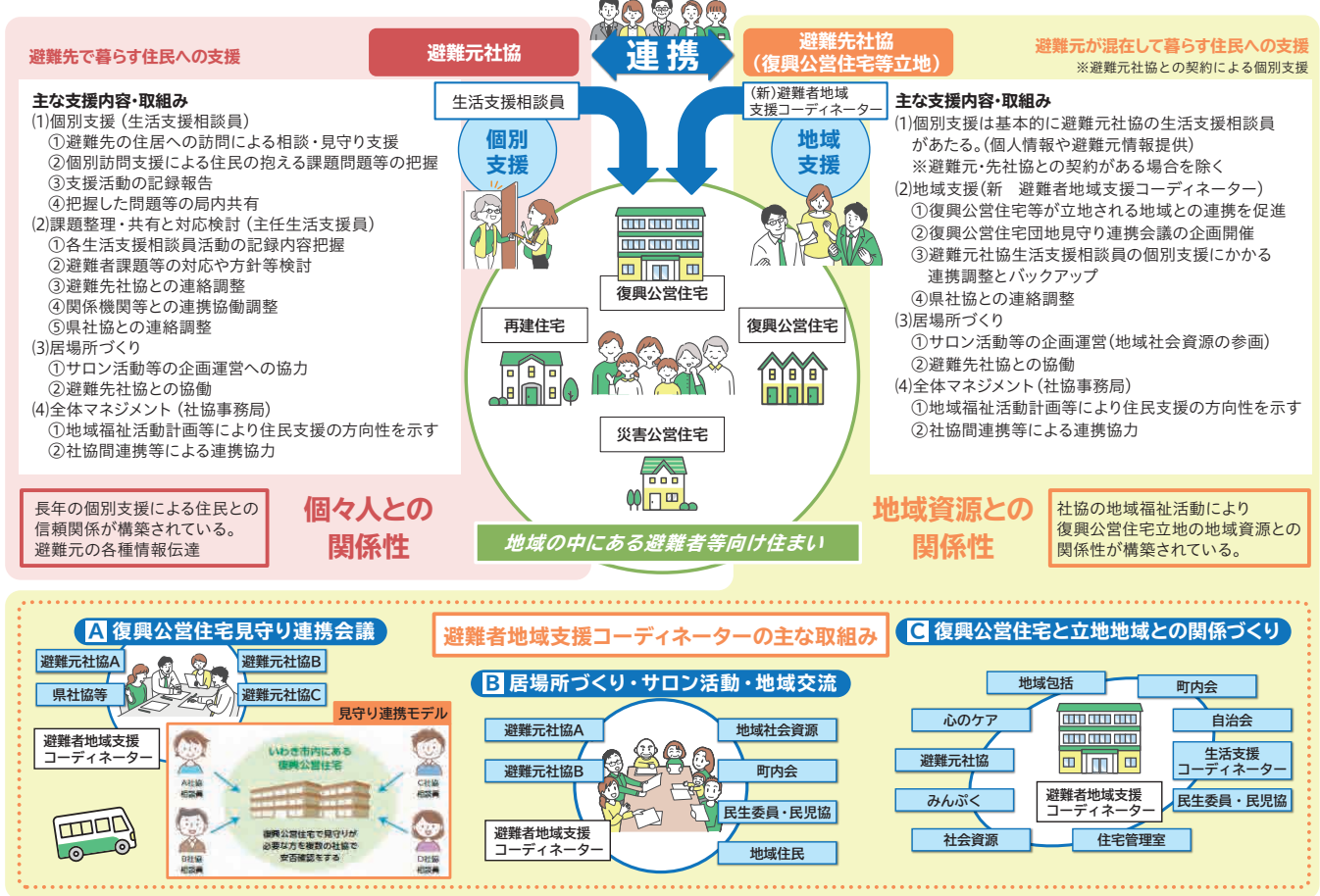
図① 避難者支援の方向性



が増えていく」と佐藤センター長は指摘します。こうした課題を解決するため、県社協が今年度から新たに配置したのが「避難者地域支援コーディネーター」です。17市町村社協の生活支援相談員の中から26人が任命され、4月1日から活動を始めています。

※ コミュニティソーシャルワーク（CSW）…地域において生活上の課題を抱える個人や家族に対する個別支援と、それらの人々が暮らす生活圏の環境整備や住民のネットワーク化などの地域支援を統合的に行うこと。

図2 令和4年度からの復興公営住宅支援の全体像と避難者地域支援コーディネーター



個別支援と地域支援を
両輪とした避難者支援を展開

避難者の抱える課題が個別化・複雑化・多様化する中、県社協は今後の避難者支援の方向性として、「地域共生社会における、個別支援を基盤とする地域支援の展開」点から面へ」をテーマに掲げています。そのため、に欠かせないのが、避難者地域支援コーディネーターです。

これまでの避難者支援は、生活支援相談員による個別支援をメインとしてきました。今後は図2のとおり、生活支援相談員と避難者地域支援コーディネーターが連携し、従来の個別支援を継続しながら地域支援の充実強化を図ります。「個別支援」という「点」から復興公営住宅や地域という「面」の支援へ移行し、個別支援と地域支援を車の両輪として避難者支援を行います。地域共生社会の理念のもと、避難者の方がいま住んでいる場所で安心して暮らせるよう地域支援を展開していきます」と、佐藤センター長は話します。

避難者の見守りを強化し
地域との関係づくりを促進

避難者地域支援コーディネーター

の具体的な取組みとしては、図2にある3つが挙げられます。

A 「復興公営住宅見守り連携会議」

に関しては、昨年度「復興公営住宅見守り連携モデル事業」として、いわき市内の17カ所の復興公営住宅を対象に、関係6市町村社協の連携による見守り活動を行いました。今後は他の地域でも社協間連携を進め、見守り強化を図ります。避難者地域支援コーディネーターは定期的に復興公営住宅見守り連携会議を企画開催するほか、各社協の生活支援相談員の訪問スケジュール調整や連携調整などを行います。

B 「居場所づくり・サロン活動・地域交流」

は、これまでも生活支援相談員が自市町村民向けのサロンやイベントを開催してきました。今後は避難者地域支援コーディネーターが復興公営住宅の入居者全員、さらに地域住民も参加できる企画を運営して交流を促進します。

C 「復興公営住宅と立地地域との関係づくり」

は、避難者地域支援コーディネーターが団地自治会、町内会、関係市町村社協、民生委員・児童委員などと顔の見える関係をつくり、情報交換から課題共有、課題解決に向けた取組みを行います。

地域支援の質の向上を目指し 社協職員にCSW研修を実施

社会福祉法第109条に「市町村社協は地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」とあるとおり、避難者地域支援コーディネーターが取り組む地域支援はもともと市町村社協が担っている役割の一つです。市町村社協は地域福祉活動のノウハウやCSWの機能を有しており、関係機関との連携のもと地域福祉活動を行っています。避難者地域支援コーディネーターは、市町村社協が有するこれらの機能を有効活用し、地域支援の充実強化を図るために活動を展開していくことになります。

県社協では市町村社協職員を対象にCSW研修を実施し、地域支援の



▲8月30日・31日に郡山市で開かれたCSW研修の様子。
東北福祉大学の森明人准教授による講義や事例検討の演習などが行われました



▲CSW研修では様々なグループワークが行われます。参加者同士で話し合いながら、地域課題解決の方法について考えていきます

質の向上に取り組んできました。今年度からは避難者地域支援コーディネーターもCSW研修に参加して地域課題解決のための方法などを学び、それぞれの活動に役立てています。

避難者地域支援コーディネーターの活動は今年4月に始まったばかりですが、すでに様々な取組みが行われています。次ページでは、その中から2つの事例を紹介します。



Q1 避難者地域支援コーディネーターにどんな活動を期待しますか？

避難背景が異なる様々な人がいる中で、復興公営住宅の入居者が地域にどう溶け込むか、生活の利便性を高める地域資源とどうつながるかが課題となっています。こうした課題を解決し、地域とつながりをつくることが避難者地域支援コーディネーターの役割です。

具体的な活動としては、まず復興公営住宅の入居者同士の交流機会をつくるのが挙げられます。避難者地域支援コーディネーターがつなぎ役となつて関係者に働きかけ、サロン活動や自治会活動を組織化し、その組織に入居者自身が無理のない形で関わるようになるのが理想です。

また、復興公営住宅が立地する自治体には自治会役員、民生委員・児童委員など、様々な地域福祉活動に携わっている方がいます。復興公営住宅の中だけで完結させるのではなく、避難者地域支援コーディネーターが橋渡し役になり、こうした方々にサロン活動に参加



県社協地域福祉アドバイザー
森明人東北福祉大学准教授に聞きました

していたくなどして、立地地域と避難者の関係性を築くことが求められます。

Q2 先生は県社協のCSW研修の講師もされています。避難者地域支援コーディネーターにCSW研修を受講してもらったのはなぜか、理由を教えてください。

地域共生社会を目指すうえで、コミュニケーションソーシャルワーカーは一人ひとりに寄り添う個別支援から地域づくりに展開していくという考え方があります。避難者地域支援コーディネーターもCSWの視点や方法を学べば、他の地域福祉活動に携わるコミュニケーションソーシャルワーカーと同じ目線に立ち、連携して活動していただくと考えています。



▲東北福祉大学総合マネジメント学部准教授の森明人さん。専門は地域福祉。令和元年度から県社協の地域福祉アドバイザーを務めています

事例①

社協連携による見守り実施情報を共有
～復興公営住宅のカルテ作成

いわき市

▶ 双葉町社会福祉協議会・避難者地域支援コーディネーターの渡邊ゆかりさん



昨年度、いわき市内の復興公営住宅で行われた6社協連携の見守り活動。今年度からは、避難者地域支援コーディネーターも加わり連携を強化しています。「避難者地域支援コーディネーターとして、地域と復興公営住宅をつなぐためにいま何ができるのか、みんなで考える時間が増えました」。そう話すのは、双葉町社協避難者地域支援コーディネーターの渡邊ゆかりさんです。



◀ 双葉町、大熊町、富岡町、浪江町、いわき市の社協による復興公営住宅見守り連携会議を定期的に開催し、団地の情報を共有しています

現在、渡邊さんが取り組んでいるのは「復興公営住宅のカルテ」作成です。「他の社協さんと情報を共有して、復興公営住宅の情報や課題、周辺地域の情報をまとめています」。今後は地域の社会資源の方が日頃から交流し、何かあったらお互いに助け合えるよう、双方をつなぎたいですね。私たちも社協間の垣根を超えて、みんなで課題解決に向けて話し合いができる関係をつくりたいと思います」と渡邊さんは今後を見据えています。

事例②

避難者と地域関係者向けのチラシを作成
～コーディネーターの活動周知と協力要請に活用

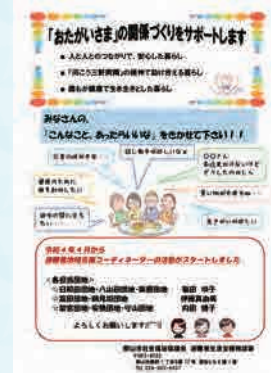
郡山市

▶ 郡山市社会福祉協議会・避難者地域支援コーディネーターの菊田恵子さん



郡山市内には17団地の復興公営住宅があります。「4月1日付で避難者地域支援コーディネーターに任命された後、避難者向けと地域関係者向けの2種類のチラシを作成しました」と、郡山市社協避難者地域支援コーディネーターの菊田恵子さん。復興公営住宅の全戸を訪問して入居者に会い、チラシを手渡ししてコーディネーターの活動を説明したそうです（留守宅にはポスティング）。その後、入居者から鳥のフンやゴミに関する相談が寄せられ、関係機関につながるなどの対応をしています。また、地域の自治会長や民生委員・児童委

◀ 復興公営住宅の全戸に配布したチラシ。入居者から寄せられる悩みや要望で課題を把握し、解決に向けた企画立案に役立てています



員への挨拶時もチラシを持ち参し、入居者の見守りや地域住民との交流への協力をお願いしました。

現在は入居者の要望に応え、社協の福祉バスを利用した買い物支援を計画中のこと。「入居者だけではなく近隣住民の方も利用できる形にして、交流が生まれるようにしたいと考えています。避難者の心に寄り添い、その思いを地域の方に知っていただける活動をしたいですね」と、菊田さんは意気込みます。

地域の生活を支え、 つながりを生み出す移動販売 只見町社協の買い物支援事業



▲「ほほえみ便」は冷蔵庫を搭載しており、肉・魚・牛乳・野菜・果物・お菓子・パンなど様々な商品を取り揃えています。お客さんからの商品注文も受け付けます



取材協力

社会福祉法人
只見町社会福祉協議会

南会津郡只見町大字長浜字唱平 60

TEL 0241-84-7006

<http://www.yamabikokatsudo.or.jp>



高齢者の見守りも兼ねた 移動スーパー・ほほえみ便

社会福祉法人只見町社会福祉協議会（以下：只見町社協）は、町内の人口減少や高齢化が進む中、交通手段が限られる高齢者の買い物支援しようと、移動販売車を事業者に無料で貸し出しています。

「只見町社協は町から『生活支援体制整備協議体』の委託を受けて、高齢者を地域全体で支える体制づくりを進めています。そのなかで、買い物に困っている方がいることが課題になりました。新型コロナウイルス感染症対策の必要もあつたため、密を避けられる移動販売車を、町の補助金で2台導入しました」と、事務局次長の栗城京司さんは話します。

事業者には、有限会社うおかくと、スーパー「ブイチエー 只見店」を経営する株式会社ブイツィーが選ばれ、2021年より移動販売車「ほほえみ便」の運行が始まりました。

移動販売は、高齢者の見守

▲事務局次長の栗城京司さん。「地域をめぐる移動販売事業者と高齢者とお互いに『ほほえみ便』取り組みになっています」



り・安否確認の役割も兼ねています。訪問の際、高齢者に支援を必要とする様子があれば、事業者は只見町社協や地域包括支援センターに連絡します。2022年1月には、2事業者と町と只見町社協の四者により「ほほえみ（高齢者等見守り）協定」が結ばれました。

お店が車でやってくる 商品を見て、選べる楽しさ

移動販売車には生鮮食品や調味料などの食料品を積んでいます。お客さんが5〜6人集まる場所もありますが、主に個人宅を一軒一軒まわります。販売車を待っている間、



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111(福島県総合社会福祉センター内)

TEL(024)522-0822 FAX(024)528-1234

メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>

.....

令和4年度「赤い羽根空の第一便」 メッセージ伝達式を実施しました！

「赤い羽根空の第一便」は、ANAグループの職員の皆さんが、共同募金運動開始前に厚生労働省大臣室において厚生労働大臣及び中央共同募金会会長のメッセージと赤い羽根を託され(中央伝達式)、共同募金運動が開始する10月1日に、東京からANAグループが就航する全国各地の知事・市町村長・共同募金会会長に伝達を行う行事です。この行事は、全国一斉の共同募金運動の開始を彩るイベントとして半世紀以上続いており、本県においては今年で30回目を迎えます。

今年は、3年ぶりに中央伝達式が開催され、福島県においては、10月1日(土)、全日本空輸株式会社 仙台支店 杉尾俊一支店長、ANAエアサービス福島 吉田美咲さんにお越しいただき、メッセージと赤い羽根の伝達が行われました。

今年度もみなさまのご協力、
よろしくお願いいたします

▶厚生労働大臣メッセージ
伝達式(福島県庁にて)



▶中央共同募金会会長メッ
セージ伝達式(福島県総合
社会福祉センターにて)

只見町は積雪が3~4mにもなります。
「ほほえみ便」は冬も変わらずに運行して
いるので、お客様から喜ばれています。
町内全体(只見地区・朝日地区・明和地
区)を、2台でカバーしています

只見町協
ホームページ



▲「ほほえみ便1号車」で明和地区を運行する、有限会社うお
かくの角田玲さん(左)と「ほほえみ便2号車」で只見地区・
朝日地区を運行する、株式会社ブイツーの渡部沙織さん(右)

近所の人々で集まり、お茶を
している地域もあります。
有限会社うおかくの角田玲
さんは「店舗はやめました、
移動販売でお客様たちに喜
んでもらえて良かったと思
います」と話します。重い商
品を家まで運んだり、時間
のあるときは洗濯物の取り
込みや除雪の手伝いをした
りするなどの支援もしてい
ます。
株式会社ブイツーの渡部
沙織さんは「また来てね」
との声かけなど、お客様と
のコミュニケーションがや

がいになっています」とのこ
と。株式会社ブイツーは、車
でブイチエーン只見店に送迎
する「たすかある便」も以前
から行っています。
利用する方々からは「車の
運転が難しくなったので、本
当に助かります。雪が多い冬
の時期も来てもらえるから安
心です」「地域の情報交換の
場になっています。移動販売
が来ないと生活できない人も
いて、地域全体が支えられて
います」「移動販売がいつも
楽しみです」と好評する声

多く聞かれました。また訪問
介護を利用する高齢の方は
「自分の選んだ食材で調理支
援をしてもらえる」と喜んで
いるそうです。
只見町社協では、これから
も高齢者が住み慣れた地域で
生活できるよう、移動販売に
よる買い物支援事業を続けて
いきたいとのこと。地域の
ニーズに合った取組みが、
人々の笑顔につながってい
ま

生活福祉資金貸付制度 ～教育支援資金のご案内～

「生活福祉資金貸付制度」は、所得の少ない世帯等に対して、資金の貸付けと必要な相談支援を行うことにより、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的とするものです。

「教育支援資金」は、生活福祉資金貸付制度の中の一つで、高等学校や大学等への進学や就学のために必要な経費を貸付するものです。

貸付対象世帯

低所得世帯：世帯収入が生活扶助基準額の1.7倍以下（家族構成により基準額は異なります）

教育支援資金貸付内容

学校教育法に規定する高等学校、高等専門学校、大学、専修学校への就学に必要な入学料や制服等の経費や、授業料・通学定期代等の就学経費を無利子でお貸付けします。

お問い合わせ先

県社協 地域福祉課 生活支援室
TEL024-523-1250

福島県社会福祉協議会
ホームページ
「生活福祉資金のご案内」



ご相談・申込先

お住まいの市町村の
社会福祉協議会

【資金の種類】

資金種類	対象経費	貸付限度額	据置期間	償還期間
教育支援費	就学に必要な経費 授業料、通学定期代、賃貸アパート家賃等	①高等学校 月額35,000円以内 ②高等専門学校 月額60,000円以内 ③短期大学 月額60,000円以内 ④大学 月額65,000円以内	卒業後6ヶ月以内	据置期間経過後20年以内
就学支度費	入学に際し必要な経費 入学料、制服代、教科書購入費等	500,000円以内		

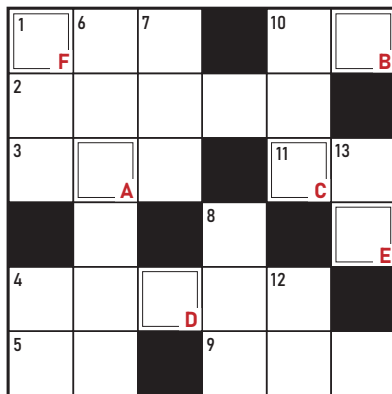
クロスワードにチャレンジ!

→ ヨコのカギ

- 靴下や足袋などを履かないこと
- トータス松本がボーカルのロックバンド
- 自分自身による伝記
- 蟹気楼
- 日本の通貨単位
- 物事の意味や内容などを正しく判断すること
- ラブ
- 大〇〇夏の陣

↓ タテのカギ

- 数を表す文字
- 格好つけたくて〇〇を張る
- NHK朝ドラ「カムカムエブリバディ」の主題歌
- 私事の怒り
- ⇒目頭
- 狩人のヒット曲「〇〇〇2号」
- ⇒天井
- パンをほったらかしていると生えてきます



全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

正解者から
抽選で3名に
プレゼント
が当たる



今月のプレゼント

地域生活サポートセンター
エル白河
(白河市・就労継続支援B型)

焼き菓子の詰め合わせ

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締切

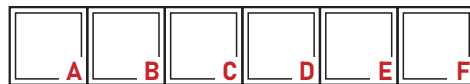
令和4年12月14日(水)

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

メールでのご応募はこちら!



10月号の正解

コベツシエン(個別支援)

多数のご応募
ありがとうございました

編集後記

地域共生社会や地域生活課題など、地域という言葉がこの先より広く普及していく中で、私たちが原発事故により避難されている方の課題に対して、相談員含め社会資源をいかに活用・開発していくことが未知の領域でもあり、求められていることであると感じました。

(避難者生活相談・支援センター 佐藤 見地)

読者のみなさんへ

他の地域の方々の活躍をみさせて頂き、私も頑張らなくてはと励まされています。ありがとうございます。
(67歳 民生委員・児童委員)

必ず読んでいます。表紙の写真がいいと思います。
(62歳 民生委員・児童委員)

ポルタさんの細やかな社会貢献やそれを支えるヨークベニマルさんをはじめとする企業の取組み、この取組みを紹介された県社協の方々。全てが素晴らしいかったです。
(59歳 教職員)